

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270600313		
法人名	社会福祉法人 清和園		
事業所名	セイワ美浜グループホーム		
所在地	千葉県千葉市美浜区磯辺2-21-2		
自己評価作成日	令和5年2月18日	評価結果市町村受理日	令和5年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が出来る限りご自分のペースで生活できるよう、余暇の過ごし方、起床・就寝、入浴の時間等ご本人の意向を出来る限り尊重している。医療連携加算をとり、併設の特養の看護職員や嘱託医と連携をとり、入居者の日々の健康管理や相談・助言をもらえる体制が出来ている。セイワ美浜複合型施設の特徴として、入居者に状態の変化があった際、併設の特養入所への調整がスムーズに行え、環境の変化に弱い入居者の負担を出来る限り少なくし、また、事業所間での情報共有もしやすくなっている。法人診療所から精神科医師の往診があり、認知症や精神状態の相談も行っている。施設内の内部研修については、其々の委員会から配信動画をを用いた動画視聴研修を今年度も実施。少人数での内部研修開催とし、密を避けた研修方法を行っている。介護技術や救急法等の実技研修については、動画視聴と実技研修を合わせた内容で少人数で開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に同法人の特別養護老人ホームほか、複数の介護事業所が所在している。当ホームは建物の2階にあり、見晴らしがよく開放的である。嘱託医や看護師との連携体制があり、利用者の健康管理に努めている。法人主催の職員教育、研修や委員会があり、支援の充実と向上を図っている。グループホームでは配膳や食器洗いのほか、洗濯物干しやたみ、居室の清掃など、利用者個々の力を活かした、自立した生活を支援している。建物内はゆったりとしており、敷地内の散歩で池の鯉や一年中何かが咲いている花壇を眺めるなど、利用者がくつろいだ生活を送れるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務室内やホームの入口等常に見える場所に理念を掲示している。勤務の申し送り時に理念について確認し、常に理念を意識し、業務に取り組むよう努めている。また、毎月のユニットカンファレンスでは入居者の個別対応について、理念と照らし合わせ、ずれた対応となっていないか確認をしている。	理念を玄関や職員室に掲示し、入職時研修と毎月のユニットカンファレンスで周知をおこなっている。理念を印字した申し送り用紙を使用して、日々の支援や個別の対応に、理念とのずれが無いかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域の小学生が街づくりボランティアとして施設敷地内の落ち葉拾いや車椅子清掃を行ってくれている。コロナ禍の為、入居者とのふれあいは今年度も行っていない。	小学校の「地域資源を学ぶ」発表会に利用者が招待されるなど、コロナ禍以前は近隣の小学校と交流があった。現在は直接会う交流は出来ないが、数十名の小学生がボランティア清掃活動に訪れている。	昨年秋に自治会から声かけがあった、「あじさい園」の清掃活動に参加することを考えている。今春以降に散歩がてらの草むしりすることを計画している。今後の活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の在宅事業所職員とともに、地域の方に向けて認知症の方の支援について、講演を実施したこともあるが定期的には行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を書面にて開催し、ホームの活動状況や、入居者の方のご様子などをお伝えし、意見交換をしている。開催回数が少なく、回数を増やせるよう計画的に実施していきたい。	コロナ禍で、運営推進会議は書面開催にしている。事前に利用者や職員の活動を書面で家族・会議メンバーに送り、併せて意見や要望を聞いている。ホームで討議した内容は会議録にまとめ、家族・会議メンバーに送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ対応が主となるが、連絡を密に取っている。	地域包括支援センターの職員から助言や情報を得ている。また、市の介護の担当課などと、コロナ感染症の対応や予防に関して、情報共有・連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会からの身体拘束廃止に向けた内部研修(指針・フローチャートの理解)を行っている。日々入居者との関り方で身体拘束となっている、なりそうなおことはなか、注意して業務に当たっている。	身体拘束廃止や虐待防止に関する委員会の討議内容を職員に周知すると共に、定期的な教育・研修をおこなっている。毎月のユニットカンファレンスでは、身体拘束廃止や事故の予防などについて、職員間で話し合う機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は委員会から、虐待防止の指針の理解研修、言葉の影響について、認知症の理解についての動画研修を実施。研修内容についてその後どのように現場で取り組んでいくのか目標を各職員掲げ、4ヶ月後自己評価し次に繋げている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や契約時には、家族と十分に話し合い、入居者の不安を出来る限り軽減できるようにしている。また、施設で行える事、行えない事、事故のリスク等も事前に説明し、理解・納得をしてもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは電話や面会時、運営推進会議等で意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。	コロナ流行前は、家族の面会時に意見・要望を聞いていた。現在は面会時間に制限を設けているため、書面・電話などでの聴き取りとしている。利用者に変化があった際は、随時に家族へ連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の開催や、適宜話し合い・相談の時間を設けて運営に反映させている。	支援や運営に関する職員意見や提案は、毎月のユニットカンファレンスで話し合っている。また日頃の気づきは連絡ノートに記載して、職員間で共有・意見交換をおこなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者には法人全体での教習制度があり、約1年間の研修カリキュラムを実施している。中途採用者には各施設での研修カリキュラムを実施。既存職員へは各委員会からの年間研修計画に沿って内部研修を行っている。現在は配信動画を用いた内部研修を中心に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の委員会や施設内の委員会等での交流、webセミナー等の外部の勉強会を通して、サービスの質の向上へ繋げている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接時等に、現在の状況や本人の気持ちをできる限り聞き取りし、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接時や契約時等に、現在の状況の把握を行い、どのような問題を抱えているのか、またどのような支援を希望しているのか、GH入居についての疑問や不安なことが無いかなど聞き取りをし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を確認した上で、本人のニーズにあった併設のサービスを紹介する等行なうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、生活の中で役割を担ってもらい、共に助け合う意識で関わっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の面会時や電話にてコミュニケーションを図り、入居者の日常の様子を伝えながら家族とケアの方法等検討、協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人への郵便物を届けたり、手紙や年賀状を書き、ポストまで出してもらおう等支援している。個人の携帯電話や施設の電話を使用し、本人と連絡を取り合ってもらっている。現在短時間面会ではあるが、直接面会の機会を設けている。	コロナ流行を受けて面会は予約制とし、1日4枠・各15分としている。面会スペースを設けており、フィルムのついた越しの面談である。電話の取次ぎ、携帯電話の操作手伝いもおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間のトラブルがないよう配慮し、より良い関係が築けるよう努めている。また食事の準備などの日常の家事で入居者同士が関わり、助け合えるような声掛けをしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の事業所へ移った入居者本人や家族と交流する機会を持つことができている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見・表情・訴えなどや家族からの情報も合わせ、本人の希望や意向の把握に努めている。	天気の良い日は出来るだけ外出の機会を作るようにしている。散歩表をつくり、介護度の高い利用者にも声かけをして、平等を心がけている。介護計画作成・見直しの際は、必ず思いや意向を聞き取って反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、生活歴や馴染みの暮らし方を職員が共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムシートや個別対応の記録を関わった職員全員で記録し、ユニットカンファレンス等も含め共有、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの開催や、家族から情報を集め、介護計画の作成につなげている。	計画作成担当者は、介護計画の作成・見直しの際に利用者・家族の意向・要望を確認している。モニタリングでは、担当職員から利用者の状況を聞いている。一方で、家族アンケートでは話し合いの機会が少ないという声が約半数から出ている。	コロナ禍を受け、計画作成担当者と家族との話し合いの機会減が、原因と推測される。意見交換の方法を検討し、納得の得られる計画作成が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活の様子の記録やケアカンファレンス、職員間の連絡ノートを活用し、情報の共有に努め、介護計画の見直しに活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や自宅等への送迎を家族対応で行うことが難しい状況の時は、施設対応とするか家族と相談し柔軟に対応している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域の店に入居者が希望する物を職員や家族が代わりに買い物に行き、購入している。今年度は自治会のあじさい園の管理を自治会の方と一緒にすることとなっているが、入居者の体調不良や悪天候もありまだ参加出来ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状態に合わせ必要な医療を家族と相談しながら受けている。法人診療所から精神科医の往診があり、希望された方は受けている。日頃生活をしている落ち着いた場所での診察は適切な診断、入居者負担の軽減に繋がっている。	利用者の希望に沿って、これまでのかかりつけ医やホームの提携医を利用している。法人の診療所から精神科医が往診しており、受診することができる。週3回看護師が訪問し、健康管理をしている。緊急時に医師、看護師と連携できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化や緊急時など看護職員へ報告し、処置や病院受診の必要性を判断している。医療連携体制加算をとっているため、併設の特養の嘱託医、看護職員に相談をする体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適宜主治医との面談を行い、状態の確認や退院の見直しについて確認している。また、病院側から新規入居の問い合わせがあった場合は入居に繋がられるか、相談、調整を出来る限り行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算をとるにあたり、重度化対応の指針を定め、説明・同意を得ている。当施設のできることを説明しながら随時家族の意向の確認を行い、併設の他事業所への移動も視野に入れて検討を行なうよう努めている。	入居時に「重度化対応に関する指針」を示し、ホームの体制を説明している。協力医療機関と連携し、必要な医療的支援をおこなっている。終末期には、利用者・家族の希望に寄り添いながら、ターミナルケアに対応しやすい、法人の他施設への移動について話をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルの研修を行い確認している。また、委員会発信の研修も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は年5回の施設内防災訓練を予定している。日中・夜間の火災想定、日中の地震、風水害想定、備蓄物品の活用方法についての訓練。今年度も地域の防災訓練に参加したり、地域の方に防災セミナーを開く等は行っていない。	昨年度は地震想定訓練を実施し、職員間で振り返りをおこなった。今年度は5回の訓練を計画に沿って実施している。施設の防災委員会に管理者が委員として参加し、事業継続計画(BCP)策定、地域連携、発電機増強などにあたっている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際、周りの入居者に分からないようにさりげなく声かけをしたり、他入居者から本人の居室が見えぬよう、居室ドアは基本閉めるよう配慮している。他入居者に排泄の有無等の個人情報がかれぬよう、職員間での申し送り等は注意して、情報共有をしている。	虐待防止に関する内部研修で、不適切な声かけがなかったか自己チェックする機会がある。日々のケアでつい大声を出す時もあり、職員間で注意し合っている。利用者の写真掲載は事前に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いや希望を聞くようにしており、こちらからも声掛けをしながら自己決定できるよう支援している。また、自分から希望を表出することが困難な入居者は、日々の関わりの中で表情、仕草から読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り個々の意思を尊重できるよう努め、散歩や入浴など、個々の希望に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院を利用する時など本人の好みに添うようにしている。また、洋服も本人の希望で選んでもらっている。毎日化粧をする方は習慣が無くならぬよう、化粧の促し、必要な化粧品の補充等、家族と協力して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に入居者の嗜好調査を行い、好みの把握に努めている。また、食事準備や片付けを入居者、職員とで協力して行っている。仲の良い入居者と一緒に食事が摂れる様、入居者の関係性にも配慮し、食卓席を決定している。	食事は委託業者が法人の厨房で調理している。準備・片付けなどは利用者と職員とでおこなっている。施設の給食委員会があり、嗜好調査、食形態、行事食、栄養管理、安全衛生などの話し合いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事・水分量をチェックし、必要に応じて、食事介助や水分摂取の促しを行っている。食事量・水分量の低下みられる方は、栄養士とも相談し、対応に繋げている。また、入居前からの習慣を尊重し、出来る限り本人の希望に合わせた促しをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック欄を作り、口腔ケアを徹底している。また、口腔衛生管理体制加算を取っており、訪問歯科医からの口腔衛生に関する指導・助言を日々の口腔ケアに活かしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズムシートに記入することでそれぞれの排泄パターンを把握し、変化が見られた場合もその都度話し合いをに対応している。	「生活リズムシート」を活用し、日々の状況、排泄の間隔やトイレ誘導のタイミングなどを共有している。自立した排泄をめざし、カンファレンスで水分摂取、運動ほか、個別に合わせた排泄支援について話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトの使用や水分摂取、運動、日光浴など、個々に合わせて促しを行い、下剤だけに頼らない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向に沿って入りたい時に入浴できるよう努めているが、場合によっては職員の都合になってしまっている。中でも入る時間は出来る限り本人の希望に合わせてくれるよう考慮している。	入浴はおおむね週2回、午後を中心におこなっている。曜日や時間、回数などは利用者の希望をできる限り反映している。ゆず湯、しょうぶ湯で季節感を取り入れ、入浴が楽しめるよう努めている。利用者は職員とともに、ゆったりと入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人の生活のリズムを考慮して、ベッドに臥床して休んでもらう等対応している。夜間の水分補給として、就寝時や夜間のトイレ等に起きて来られた際は、水分の促しをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報を共有して症状の変化の確認に努め、看護職員への報告を行なっている。また、必要によって主治医へ相談、服薬内容の見直しに繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る範囲やその時々気持ちに配慮し、家事等に参加できるよう支援している。また、テレビや音楽、一緒に歌ったり等楽しく過ごせるよう配慮している。個々に合わせ、新聞を取ったり、好きな雑誌を送ってもらったり、将棋等の楽しみもやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度も大きな外出支援は出来ていない。施設周辺の散歩は天気の良い日に定期的に行っている。	天気の良い日はできる限り散歩にでかけるようにしている。天気の良くない日も、法人の広い敷地内に建つ、大きな建物内を歩くことで、気分転換や運動の機会となっている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年度も入居者と一緒に買い物に行けていないが、入居者の希望に合わせ、預り金で好きなものを購入している。本人の希望で自身でお金を管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で携帯電話を持参している方は、好きな時に電話をかけている。また、家族からの電話を本人へ繋ぐこともある。本人から家族への年賀状を書いてもらう促しや、以前から年賀状のやり取りをしていた方へ年賀状を書いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整や清潔保持に努めている。また、季節に合った野菜をウッドデッキで育て、収穫をし季節を感じてもらっている。ユニット内で懐かしの音楽や入居者の好みの音楽、映画などのDVD観賞など、入居者と相談し行っている。	建物の2階に、当ホーム2ユニットが設置されている。中庭のウッドデッキは眺めも良く、洗濯物干しや園芸にも活用されている。清掃・消毒が徹底されており、アクリル板のついたてを置いて感染対策に努めている。利用者は各自ゆったりと過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の意向に沿って、ユニット内の食卓やソファ、ユニット間のソファ、ウッドデッキ等で自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者がこれまで使用していた家具や写真、ぬいぐるみ、仏壇などを持ち込んでいただき、本人にとって居心地の良い、自分に合った居室となるよう工夫している。	居室にはベッド、タンス、洗面台が備えられている。その他の家具や生活用品は好みのもを持ち込み、自由な部屋作りをしている。居室担当職員が掃除や衣類管理などをおこない、不足があれば家族に伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置など安全に考慮している。トイレの場所やトイレまでの道を記した案内板を設置し、目で分かる情報も取り入れながら生活しやすい環境作りに努めている。個人の食器類や衣類には記名をし、自身でも自分の物が解るようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと